



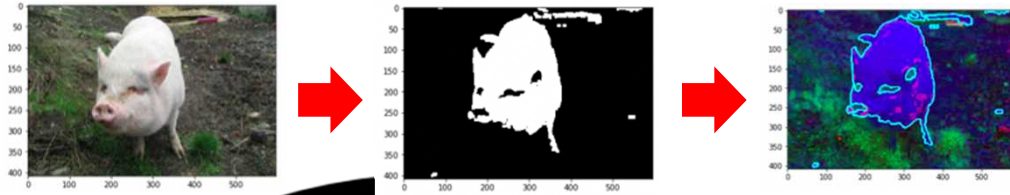
IoT x クラウドAIを用いた豚肥育管理システムの実証事業

課題	解決策
<p>現場記録の継続困難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 棚卸しは月 1 回程度 ・ 出荷時期や出荷数量の計画は困難 	<p>クラウドAIとWebアプリにより棚卸しを自動化</p>
<p>体重測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出荷時期決定は現場任せ ・ 出荷に適した生育の状況は、現場でしかわからない。 	<p>画像解析・クラウドAIで体重推量し、Webアプリで確認を可能に</p>
<p>廃業増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化と先行き不安 <ul style="list-style-type: none"> → 経験による飼育 → 引き継ぎ・継承が難しい ・ 飼料価格の高騰と市場価格固定化 	<p>数値的エビデンスを基にした現場改善 出荷時期把握により積極的な営業・販促・飼料の工夫トライアル等を可能に</p>

システムの概要



クラウドで画像解析とAI（機械学習）を自動化



実重量と画像解析結果、異なる2つのデータをクラウド上のAIで学習させ、頭数や大きさ（重さ）の画像解析の推量精度を向上させる。

クラウドの利点



関係者はいつでも、どこからでもデータにアクセスが可能。

可能になること

- 経営者、管理者がリアルタイムに現場の状況を把握が可能になり、現場への細やかな指示が可能に。
- デイリー棚卸しと出荷計画が可能になり、積極的な営業が可能に。
- 成長速度の可視化により、肥育に効果的な給餌、飼育、飼料トライアルなどを実現可能に。

IoT体重計による 体重データ自動記録

AI解析精度向上のため、初期期間には実データ取得が重要。



クラウドに
自動保存

定点カメラによる
画像自動
記録

(1) 小売業における課題

課題①

沖縄の中小販売店舗の売り上げは全国の44%に留まっている。

課題②

現状、売上等の分析を行うためには、POSレジの導入とITを連携させる必要があるが高コストである



経済的な事情から、中小店舗は顧客分析や販促に経費をかけることが困難

(2) 課題に対する対策

対策①

新規に開発するIoT端末を店舗に設置することで、顧客の消費行動の把握を支援

対策②

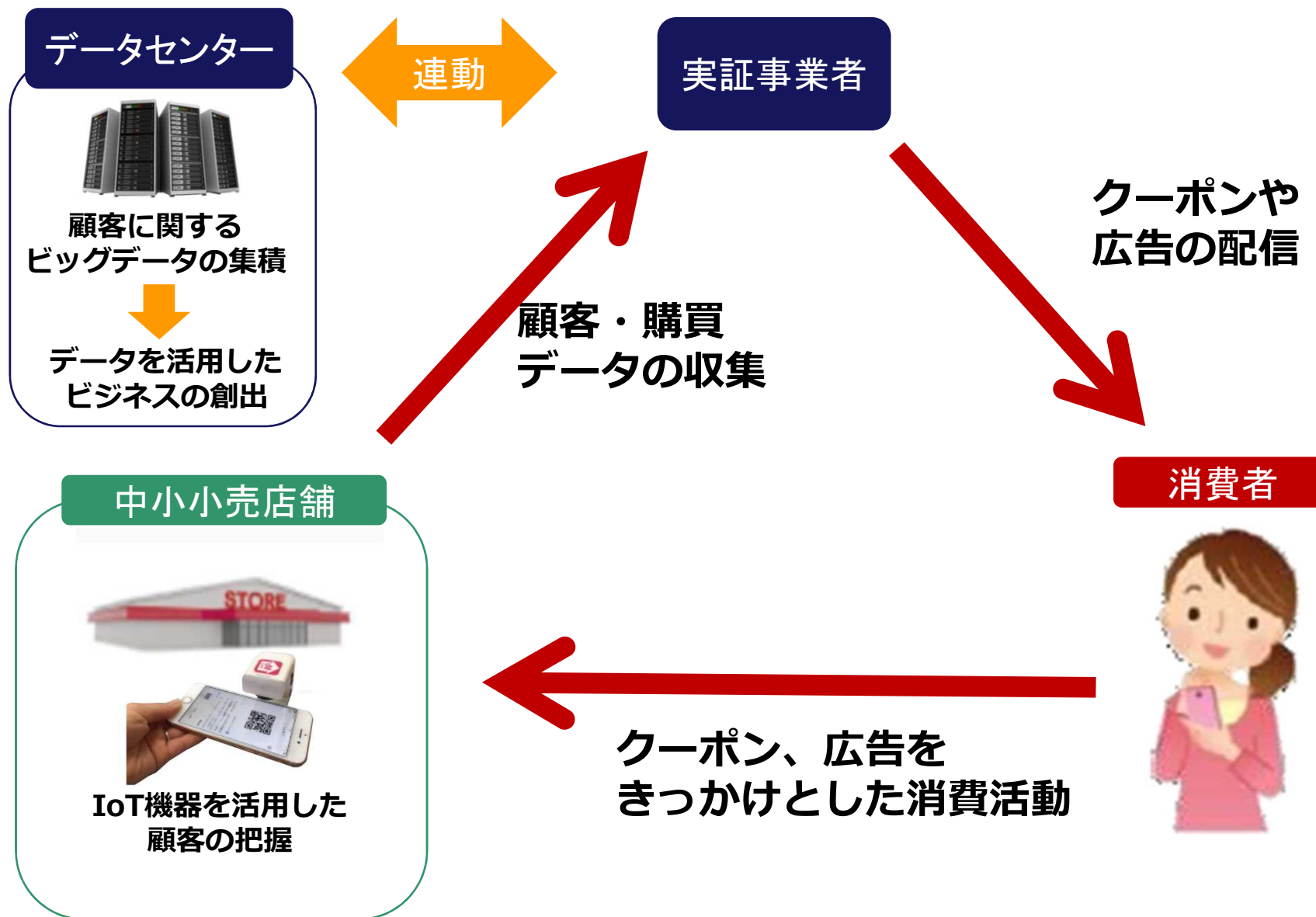
顧客のスマートフォンクーポン等を利用した広告を配信

対策③

店舗を利用した顧客に対しポイントを付与することにより消費促進を図る



中小店舗の売上増加に繋がる



ITを活用した 果実栽培の効率化及び高度化 支援サービス開発事業

スマート農業推進コンソーシアム

代表企業：株式会社okicom

ドローン・ITを活用したスマート農業を推進します

現状と課題

1 栽培にかかる ノウハウが属人的

栽培に係るノウハウが、暗黙知ベースとなっており、共有されておらず、継承が難しい

2 農園の把握が 困難

果樹の状況、病虫害・鳥害の発生状況等を把握するために、頻繁に農園を見回る必要があるが、傾斜地にあるため負担が大きい。

対策

- 果実の色や大きさ、糖度等の生育状態を記録し、ドローン画像との相関を分析することにより、適切な収穫時期等のベテラン生産者が経験と勘をもとに判断していたことを数値化する

- 栽培状況や病虫害の発生状況を、ドローン画像で解析することにより、農園の状態把握を容易にする。
- カラス等の害鳥を監視し、鳥害を防ぐ

生産性向上により
収益向上



ドローン運行自動化

を検討し、さらなる生産性向上を目指す

事業内容

サービスイメージ図

実証内容を基に構築するサービス内容のイメージ

